

# 会議録

会議の名称	令和3年度第3回川越市上下水道事業経営審議会
開催日時	令和3年11月2日(火) 午後1時55分 開会 ・ 午後4時00分 閉会
開催場所	中央公民館 3階 軽体育室
議長(会長) 氏名 *敬称略	議長:青木 亮(会長)
出席者(委員) 氏名(人数) *敬称略	青木亮(会長)、佐野勝正(副会長) 須賀昭夫、柿田有一、吉野郁恵、高橋剛、大泉一夫、小ノ澤哲也、小野澤康弘、 山崎宏史、新井正司、安藤敏子、棚沢利郎、町田明美、横山三枝子、小池均、 正木一弘 の各委員(17名)
欠席者(委員) 氏名(人数) *敬称略	加藤榮壽 委員(1名)
事務局職員 氏名(職名)	大成一門(上下水道局長) 【財務課】 高木康行(参事)、矢野雄一(副課長) 【給水サービス課】 原雄二(課長) 【事業計画課】 小林武(上下水道局副局長) 【水道課】 新井賢一(課長) 【下水道課】 駒井和久(課長) 【上下水道管理センター】 石戸祐仁(所長) 【総務企画課】 内田真(上下水道局副局長)、飯野弘美(副課長)、阿出川一斉(副主幹)、 高梨義久(主査)、児玉陽介(主査)、小林泰貴(主事)、荒井咲樹(主事補)
傍聴人(人数)	1名
会議次第	別紙のとおり

配布資料

(事前に配布した資料)

- 資料 1 川越市上下水道事業経営戦略 令和2年度取組状況報告書
- 参考資料 1 川越市上下水道事業経営戦略  
令和2年度取組状況報告書のポイント

(当日の配布資料)

- 会議次第

議事の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
	<b>1 開会</b>
事務局	事務局より、委員18名のうち17名が出席しており、出席者が過半数に達しているため、川越市上下水道事業経営審議会条例第5条第2項に基づき、会議が成立している旨の報告がなされた。
会長	開会の挨拶（青木会長） *以降は青木会長が議長となり議事を進行。
議長	【傍聴者の確認】 議長から傍聴希望者の有無について確認が行われ、事務局より該当者なしとの報告がなされた。 *会議開始後、傍聴希望者が遅れて現れたので入室させた。 【傍聴者1名入室】
	<b>2 議題</b> <b>(1) 川越市上下水道事業経営戦略 令和2年度取組状況報告について</b>
事務局	[資料1及び参考資料1に基づき説明]
議長	3ページと7ページで、令和2年度の評価が出ていますが、数字を見ると、妥当かなという感じがする反面、各評価の境目があいまいなので、その辺の基準があるようでしたらば、もう少し細かく教えていただけますでしょうか。
事務局	経営戦略では、上下水道ビジョンとは違い、10年後の目標が達成可能かどうかを相対的に評価していますが、達成状況や類似団体指標値の偏りなどを勘案した内部の基準を一応持っています。
副会長	4点質問いたします。まず、目標設定等、計画のスタンスについてどのような考えで作ったのかということをお聞きします。 2点目は、営業費用や建設改良費にもものすごく差が出ていますので、今後どういうふうにしていくのかなという見込みについてご説明いただければと思います。 3点目に、レーダーチャートの説明がありましたが、類似規模の自治体間での比較というのは分かりやすいのですが、どこの自治体も財源が厳しい状況なので、悪い数字同士を比較してもあまり意味がないと感じました。

事務局	<p>本来達成すべき水準を捉えて、それとチャートの比較ができれば、より望ましいと考えます。</p> <p>4点目は浄水場施設の問題について、できれば管理状況とか老朽化の問題についてご説明いただきたいと思います。</p> <p>計画の目標については、経営戦略の投資・財政計画と両輪をなしている上下水道ビジョンにおいても設定しており、川越市として持続可能な上下水道事業という大きな責務を確実に果たしていくための、10年目標の更新率、耐震化率などを定めています。当初の計画のスタンスについては、川越市の水道事業が非常に早い段階から始まっているため、類似団体との単純比較はあまり参考にならないと考えています。こうした川越市の特性も考慮した上で、毎年の更新率等を設定していますので、目標については背伸びをしないと達成できない数字だと思っています。決して低い設定ということは考えておりません。</p> <p>続きまして営業費用、建設改良費の乖離等についてです。資料にあります総係費の減少には、職員の給与費なども含まれておりまして、退職者の増減等によっても、計画との差が大きくなる可能性もあります。建設改良費の増減に合わせて、その翌年度以降の減価償却費も連動してきますので計画との乖離が生じているところです。建設改良費の乖離につきましては、入札の不調が出ないような対策や、その後の繰越し工事の実施など、計画に遅れが出ないよう取り組んでいく必要があると考えています。</p> <p>レーダーチャートについては、確かにそういった部分もあるかと思えます。ただし、類似団体と全国統一の指標で比較できるものであり、本編にも掲載している都合上、必要だと考えているところですが、他の指標やあるべき数値など、参考資料等で補足できる要素がないか今後検討させていただきたいと思います。</p> <p>浄水場につきましては、委託事業者の社員、また国家資格を持った電気職の市職員が、日常の保守点検等を行っています。また年次点検としまして、各設備のメーカーの点検をそれぞれ実施しています。具体的には、浄水場の機能を停止して、夜間一斉に各設備の点検を行うことを予定しています。点検の結果、交換が必要な部品等が出た場合には、緊急性、重要性、また予算の平準化等も併せて判断しまして各施設の健全度を保つように努めていきます。</p>
委員	<p>参考資料で、上下水道それぞれ建設改良費の乖離があったということですが、入札不調というと、予定された工事ができなかったということだと思います。上水、下水でそれぞれ請負差金と、入札不調の規模というか、割合はどのような状況であったかということと、下水道の有収率が低くなっている理由について教えていただきたいと思います。</p>

事務局	<p>水道課における昨年度の工事の不調額は、約 2 億 4,000 万円であり、請負差金、入札によって差金が出た額が約 1 億 6,000 万円で合計約 4 億円となっています。</p> <p>下水道課における昨年度実績につきましては、入札の不調等により、令和 2 年度内に終わらなかった工事の金額が約 3 億 8,000 万円でした。請負差金の約 1 億 4,000 万円のほかに、もともと 2 箇年の工事予定が令和 2 年度内で終わらずに、工期が延びてしまった分の金額も建設改良費の乖離の要因になっています。</p> <p>次に有収率についてお答えさせていただきます。下水道の有収率につきましては、年間の降水量に比例して増えたり減ったりしている状況があります。川越市は下水道の施設整備の歴史が古く、老朽化したマンホール等の隙間から地下水が流入しているところがあり、これをいわゆる「不明水」と言いますが、データ上は、不明水の約 7 割が地下水の浸入で、残りの 3 割が雨天時浸入水となっています。また地盤的な特徴も要因となっており、特に市の北部から東部は、もともと土地が低く、そのような所では地下水位が非常に高いので、常に下水管が地下水の中に埋まっているような状況が想定されます。現状はその対策として、調査をすることが非常に大事な作業になっていますので、簡易的な目視調査や、一步踏み込んだテレビカメラ調査で浸入状況を把握した上で、部分的な補修対応や場合によっては、管の更生や布設替えといった対応をしています。ただし、事業費もかかりますのでイタチごっこのような部分もあります。</p>
委員	<p>その不明水（雨水）の処理費用に対して一般会計からお金が入ってくるということですか。</p>
事務局	<p>基本的には汚水は私費により処理をするという考え方になっていますので、お客様からいただいた使用料をもとに運営することが基本となります。不明水の分を雨水事業としてお金をいただくことはできませんので、そういった中で調査、改修工事、布設替えに取り組んでいるところです。</p>
委員	<p>管路経年化率の関係で、法定耐用年数が何年なのかということをお聞かせ願いたいのと、経年化率が上がっていくということは、緊急工事であるとか、災害のときの復旧費用であるとか、どこかで工事以外の予算も増やすということも考えられると思いますが、そういった予算措置というものについてどう考えているかを伺いたいと思います。もう一点は意見なのですが、次年度以降の報告書では、計画期間における取組の累計というものを見ることができると分かりやすいと思います。</p>
事務局	<p>法定耐用年数についてですが、水道の方は一般的に法定耐用年数が 40 年となっています。そして下水道については国交省からの指導で法定耐用年</p>

	<p>数が 50 年となっています。</p> <p>修繕工事の予算措置を含めた今後の考え方ですが、修繕工事は 3 条予算に影響してくると思いますので、できれば単年度に、大量の費用を投入するというよりは、計画的に平準化して数年間かけてやっていく形で対処していくのがいいのではないかと考えています。</p>
<p>委員</p>	<p>18 ページ 19 ページで、経費回収率と汚水処理原価とあります。この 2 点に関して評価の中で、令和元年度から汚水処理費の算出方法を見直したということが記載されています。</p> <p>これは、その方が正しいのであればいいと思うのですが、何か計算方法を変えたから、経費回収できなくなりましたと見えてしまいます。経費回収率に関しても汚水処理原価に関しても、実は昔からそれほど変わってなくて、経費回収率は 90% を下回っていたのかという点が 1 点。もう一つは、類似団体の平均値が比較対象になってきますが、類似団体は同じような計算をした上で、このようなグラフを出しているのか。こうしたところを少し確認という意味で教えてください。</p>
<p>事務局</p>	<p>同じ計算をした場合のこれまでの指標値については、今手元に資料がないのですが、おそらくそれに近い形かと思います。それぞれの団体がどのような方式で算出しているかは確認を取っておりませんが、少し解釈の違いがございまして、本市の計算方法を変更したということになります。</p>
<p>副会長</p>	<p>検証結果の話がありましたが、特にコロナ禍やアフターコロナで取組の考え方も変わってくると思いますし、いろいろと課題が見えてきているところがありますので、ぜひこの経営戦略も 2 年後くらいには見直していただいた方がいいのかなと思っています。</p>
<p>事務局</p>	<p>経営戦略につきましては、コロナの影響なども考慮し、実情に即した計画として一度精査する必要もあると考えていますので、今後具体的に取り組んで参りたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほど不調の話がありましたが、上水道、下水道それぞれ不調となった分は短時間で取り戻せる規模なのでしょうか。不調の裏側にある事業者の規模や余力を踏まえて、遅れた分を 1 年とか 2 年で回復できる状況なのかというところについて現在の見通しをまず伺いたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>水道関係の昨年度の不調のケースにつきましては、繰越工事という形で、発注を行っています。その分については結局後送りというような形で遅れてはいますが順調に進んでいます。</p> <p>下水道関係の繰越工事は昨年度 3 本ありまして、令和 3 年度に繰り越し</p>

	<p>を行っています。その3本とも5月末時点で工事の方は完了しています。入札の中止や不調による影響というのは、短いスパンで見れば、今はかろうじてできている状況ですが、上下水道事業の目標達成に向けた大きな課題となっており、適正な発注作業に努めているところです。</p>
委員	<p>レーダーチャートで、経常収支と料金回収率がマイナス方向に振れて心配だという見立てをしているようですが、コロナの影響などによってあえて基本料金を免除したことについては、今の計画と現状を分かった上で、政策的に料金を取るのをやめたということになるのでしょうか。</p>
事務局	<p>今お話しのとおり、計画の中で対応したところです。</p>
委員	<p>経常収支、料金回収率等については、計画だけではなくて、その時々状況によって政策的にぶれるという話で、マイナスに振れたからといって必ずしもそれが「悪い」ということではないのかなというふうに思いました。前回の議論の中では水道料金を少し上げてでも何とか老朽化対策を行ったかどうかという話が随分出ましたけれども、住民の生活状況の話も一方では大事だろうと私は思っています。そこで気になったのが、給水停止の話です。現状で年間どれくらい給水停止があるのかお答えいただければと思います。</p>
事務局	<p>直近5年間の給水停止の件数ですが、平成28年度が3,332件、29年度が3,078件、30年度が2,960件、令和元年度が3,066件で、令和2年度が2,073件です。令和2年度が少ない理由として、緊急事態宣言のタイミングで4回ほど給水停止の見送りを行ったことが挙げられます。</p>
委員	<p>川越市の世帯数は15万世帯ぐらいになると思いますが、今の規模だと年間で延べ3,000件、50世帯に1世帯ぐらいが平均して給水が停止されるという状況だということですね。水道事業の経営というのは単に経営ということだけではなくて生活と水道ということにもなると思うので、安易に料金の話をするのではなく、この点について理解をしながら対応していただければいいかなと思います。見たところ、内部留保資金は一定程度の規模を保って減少する様子ではないように見えますので引き続き堅調な運営をお願いしたいと思います。</p>
副会長	<p>管きよなどの更新の問題があると思いますが、これは、価格の上昇をどのくらい見ているのでしょうか。おそらく令和11年頃には今よりも価格も人件費も上がります。世界的な資源のことを考えれば資材の価格も上がります。計画はどのくらいの上昇率を見ているのか、どう考えているのかお聞きしたいと思います。</p>

事務局	<p>経営戦略上では価格の上昇率をどのぐらい見るかという明確なものはないのですが、令和元年度に策定した段階では、令和4年度に料金を10%上げた場合のシミュレーションというところでしか数値を見ていないかと思えます。現時点で価格の上昇率については想定をしていないところです。</p>
副会長	<p>日本の国家戦略として人件費を上げていくなどと言われていまして、見直しの時はそういったところも検討をお願いします。</p>
議長	<p>今後、数年先だろうとは思いますが、料金改定の議論が必要になった際に審議会で検討することになると思いますので、その際は丁寧な説明をお願いします。給水停止の話がありましたが、やはり水というのは人々の生活に直接関わる場所ですので、上下水道局の方も督促などの段階を経て行っているのだと思いますが、その辺り丁寧に進めていただくと同時に広報の方もしていただければと思いますので、よろしくお願いします。</p>
<p><b>3 その他</b></p>	
議長	<p>委員の皆様から全体を通じて、ご意見・ご質問等ありますか。</p> <p>－意見・質問なし－</p>
議長	<p>そうしましたら、事務局からお願いいたします。</p>
上下水道局長	<p>この度は、貴重なご意見を賜りまして誠にありがとうございました。今年度は緊急の案件がない場合は、本日の審議会をもちまして議題は全て終了となります。なお委員の皆様のご任期につきましては、来年の7月12日までとなっています。来年度は、委員の改選の年となりますので引き続き、ご協力をお願いしたいと思います。</p> <p>[各委員から一言ずつ挨拶]</p>
<p><b>4 閉会</b></p>	
副会長	<p>閉会のことば（佐野副会長）</p>